

## 未来を描き実現する力（その1）

いま何が課題なのか、常に問題意識を持ち、  
目指すべき目標や目標達成の方法を自ら考える人

解説シリーズも最終コーナーに入りました。今回は「未来を描き、実現する力」のうち、未来を描く力を説明します。中長期的なスパンで将来を見通したビジョンを設定したり、目の前の問題からより本源的な課題を発見し、次の行動への道筋を描く力です。

地方自治法では、市町村に対し総合的・計画的な行政の運営を図るための基本構想を定めることを義務づけており、この規定に基づき平成20年度に策定したのが、北九州市の基本構想「元気発進！北九州」プランです。

このような長期的なビジョンを策定する一方で、社会経済の変化のスピードや地方分権の進展を背景に、限られた時間・情報の中で状況を分析し、次の行動を判断することが必要な場面も増えています。前例踏襲力ではなく、課題を発見・設定する力やその解決方策を導く出す力です。そして「経営」という視点も求められてきています。

例えば、平成23年に選定された「北九州市環境未来都市」と「グリーンアジア国際戦略総合特区」。多数の自治体が名乗りを上げるなかでダブル選定を勝ち取ったのは、市の現状や外部環境の変化を的確に分析し描き出した「北九州の将来像」と、その実現に向けた具体的な「行動計画」、その双方が評価された成果だといえます。



いま何が課題なのか。市役所は何をすべきなのか。  
北九州市役所が実施する施策・事業には、必ず何らかの問題意識や目的があります。

「北九州ブランドの構築」の一環としてWeb上に構築した「北九州市時と風の博物館」。北九州市の魅力な地域資源を紹介していますが、この事業のポイントは地域資源の公募による「シビックプライドの醸成」です。市民がまちへの自信と誇りを持ち、主体的にまちづくりに「直接



携わってみたい」という意識・意欲（シビックプライド）がブランド構築の推進力となる。このような問題意識が事業の根底にあります。だからこそこの事業では、特別なハードルを設けることなく市民から公募を受け付け、「個人的な記憶や思い」「民族的な風土」といった日常に埋もれている地域資源を、市民自らの手で発掘・再発見してもらうことを重視しています。



ほかにも例をあげると、港湾空港局が実施した「ビーチレクリエーション事業」には、ハード整備からソフト施策へ軸足を移し、臨海部の市民利用を促進していく目的があります。

また、北九州市立医療センターの「7対1看護体制」は、手厚い看護体制というサービス提供の視点と同時に、診療報酬の変化という病院経営の視点、双方から分析・検討を重ね、導入に踏み切っています。

以前説明したように、採用されたばかりの職員は、まずは目の前の仕事を正確かつ迅速に処理することが求められます。しかし、経験を重ねるにつれ皆さんに期待されるのは、現状を改善し変革する役割です。そしてその時に重要となるのが「未来を描く力」です。



## 未来を描き実現する力（その2）

自分が設定した目標に向かい、  
失敗を恐れず行動し、最後まで粘り強くやりとげる人

解説シリーズ最終回です。「未来を描き、実現する力」の後半部分、「実現する力」について説明します。

未来を描くことと現実に実現することは別物です。目標を設定する力と、そこから行動し、やり抜く力は違います。幾ら良いアイデアが浮かんでも、実行できなければ評論家で終わってしまいます。特徴的・先駆的な取組みに限らず、北九州市役所の全ての施策・事業には、自分が設定した目標に向かって挑戦し、あきらめない職員の存在があります。

例えば「北九州フィルム・コミッション（KFC）」。フィルム・コミッションは、映画、テレビなどのロケ撮影を地元を誘致するとともに、実際のロケをスムーズに進めるため様々な後方支援を行う組織ですが、北九州市は1989年に全国



初のFC組織を立ち上げ、以降、精力的な活動で国内100を超えるFCの中でも強烈な存在感を放っています。その誕生から今に至るまでの物語をぜひKFCのホームページで読んでみてください。今回のテーマだけでなく、これまで説明してきた求める人材像のエッセンスを数多く再確認できると思います。

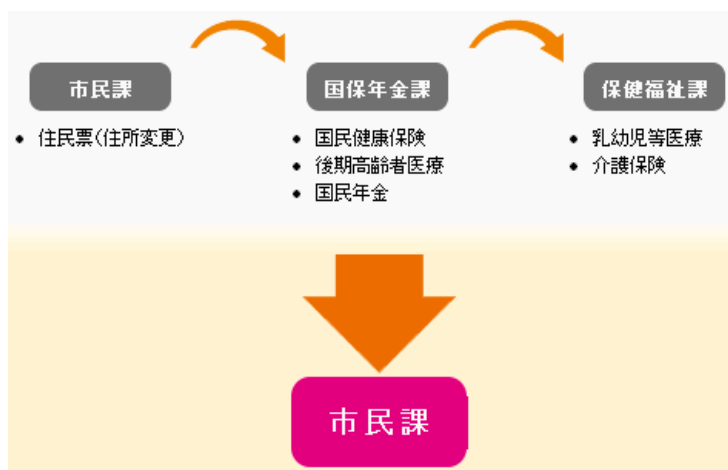
(<http://www.kitakyu-fc.com/>)

今まで解説シリーズで紹介してきた数々の施策・事業も、目標に向かって最後までやり遂げる職員がいたからこそ実現できたものばかりです。

「熱く燃える『志』」の解説で紹介した「区役所窓口ワンストップサービス」を覚えていますか？引越しや子どもの出生に伴う数々の手続きを、別々の窓口ではなく一つの課で完了できるようにする。口で言うと単純な感じがしますし、そんなの当たり前前の対応じゃないか？と思う人もいるかもしれませんが、しかし、この当たり前前の対応が実現に至るまで、実に多くの職員のあきらめない努力がありました。



まずそれぞれの手続きでデータ管理や証明書等を交付するシステムが異なっていました。その縦割り状態を解消し、システム間のデータ連携を可能とするため、市全体の情報システムを再編する必要がありました。その上で、事務処理の手順や各区役所のフロー・カウンターの配置を来庁者目線でゼロから見直していったのです。



区役所を建て替えてしまえば、スムーズかつ快適に手続きを行える空間が簡単に作れるかもしれませんが、しかし、7つある区役所を一斉に建て替える財政余力のある自治体は、北九州市だけでなく日本のどこにもありません。限られた予算・限られた空間の中で何ができるか、それぞれの区役所で日々議論、検討が重ねられました。情報システムの再編着手から全区ワンストップの実現まで5年。予期せぬ様々な障害にあきらめることなく、多くの職員が力を合わせ努力し続けることによって市民サービスの向上が実現したのです。

みなさん、失敗を恐れず、壁にぶつかっても目標に向かってやり遂げた出来事ってどんなものがありますか？もちろん、例えば受験勉強でぶつかる壁と仕事でぶつかる壁は同じではありませんが、みなさんが「この経験は仕事でもきっと生きるはず！」と思う達成体験を、ぜひ今までの人生の中から振り返ってみてください。

